

群 教 七	E03 - 03
	平24.246集

互いに尊重しよさを認め合える 人間関係をはぐくむ学級活動の工夫

— 小学校学級活動に
「デジタルいいとこさがし」を取り入れて —

長期研修員 石森 孝子

《研究の概要》

本研究では、互いに尊重しよさを認め合える人間関係をはぐくむ学級活動を充実するために「デジタルいいとこさがし」を行った。デジタルカメラを活用して学級活動を記録し、その活動から友達のよさを見付ける活動や友達のよさを伝え合う活動を行うことにより、自他のよさが分かり、互いを大切に思い、互いの気持ちを分かり合える人間関係をはぐくむ上で有効であることを実践を通して明らかにした。

キーワード 【学級活動 デジタルカメラ いいとこさがし 人間関係】

I 主題設定の理由

小学校学習指導要領特別活動（平成20年3月）の目標には、「人間関係」や「自己の生き方についての考えを深め、自己を生かす能力を養う」が新たに加えられた。地域社会における人間関係の希薄化などが進むという今日的な課題を踏まえ、望ましい集団活動を通してよりよい人間関係を築くとともに、集団の一員として自己をよりよく生かすことができるようにするなど、豊かな人間性や社会性、自律性を備えた児童を育てることを目指したことによるものである。

中央教育審議会（平成20年1月）の答申の中で、特別活動の改善の基本方針の一つとして、自分に自信がもてず、人間関係に不安を感じていたり、好ましい人間関係が築けず社会性の育成が不十分であったりする子どもたちの状況を取り上げている。協力校の児童にも友達づくりや友達との関係を深めることに困難を感じているなどよりよい人間関係を築くことに課題がある。

協力校では、授業や当番活動などにより、多くの他者とかかわるように様々な活動を行っている。しかし、限られた活動の中では、互いの思いや考えを分かり合って、かかわりを深めるまでには至らないことが多い。児童同士の関係を深める場面を工夫したり、児童同士がよさを認め合うなど互いに共感し合える場面を工夫することが教師の課題である。

このような課題を解決するためには、友達の行動にさりげなく目を向けさせる機会をつくり、互いのよさに意図的に気付かせ、自分や友達について言葉で伝え合ったりするなど望ましい集団活動や体験的な活動をさせることが必要である。

そこで、本研究では、簡単な操作をして画像等で記録に残せるデジタルカメラの特性に着目した。時間や場所がそれぞれ異なる活動をする場合でも児童が記録写真を撮り、その写真によって視覚的に互いのよさを認め合うことができ、友達のよさを写真を基に言葉で表現し学級に広め合う機会を効率よく設定できる。学級活動に「デジタルいいとこさがし」を取り入れることで、互いに尊重しよさを認め合える人間関係をはぐくむ学級活動を充実させたいと考え、本研究主題を設定した。

II 研究のねらい

小学校学級活動において、集団活動や体験的な活動を工夫した「デジタルいいとこさがし」を取り入れることにより、児童が自他のよさや可能性に気付いたり、共感的な姿勢をもてたりして、互いに尊重しよさを認め合える人間関係をはぐくむことができる学級活動が充実することを実践を通して明らかにする。

Ⅲ 研究の見通し

- 1 デジタルカメラを活用して児童同士で学級記録を写真に撮ることは、友達や学級の雰囲気について知るきっかけになるであろう。
- 2 友達のよさを見付ける活動を行うことは、友達のよさや大切さに気づき、共感的な姿勢をもてる学級活動となるであろう。
- 3 友達のよさを伝え合う活動を工夫することは、自他のよさや可能性に気づき、互いを理解して、よさを認め合うことができる学級活動となるであろう。

Ⅳ 研究の内容

1 基本的な考え方

(1) 互いに尊重しよさを認め合える人間関係をはぐくむ学級活動の工夫について

学級経営の充実のためには、児童一人一人が存在感をもてたり、児童同士が互いに分かり合えたりするような学級指導を図ることを考える。「デジタルいいとこさがし」を取り入れた集団活動や体験的な活動を工夫することにより、児童が互いに尊重しよさを認め合える人間関係をはぐくむ学級活動が充実できると考える。そして本活動では、学級全員のよさを見付けられるような活動を意図的に設ける。児童は、相手に自分の言葉で伝えたり、文字にして伝えたりする活動を行うことにより、様々な場面で互いを認め合ったり、心の通い合いができたりしてコミュニケーションの広がり期待できると考える。また、互いの考えや行動などに共感したり、受容したりする姿勢や態度をもつことも期待できると考える。

活動の中心である「デジタルいいとこさがし」では、デジタルカメラを活用したいとこさがしを行い、互いのよいところやがんばっている様子の写真を撮り合う活動を行う。友達のよさを見付ける場面を工夫した活動や友達によさを伝える活動を意図的に仕組んで活動させる。友達のよさやがんばりを写真に言葉を添えて伝えたり、写真を貼付してメッセージを添えて交換し合ったりする活動を行わせる。これらのことにより、友達や自分のことについて言葉で伝え合ったり、よさを認め合ったりする場面を設定することが不足していたことを補う活動ができると考える。

本研究の手だて、内容と方法、研究の構想を図1に示す。

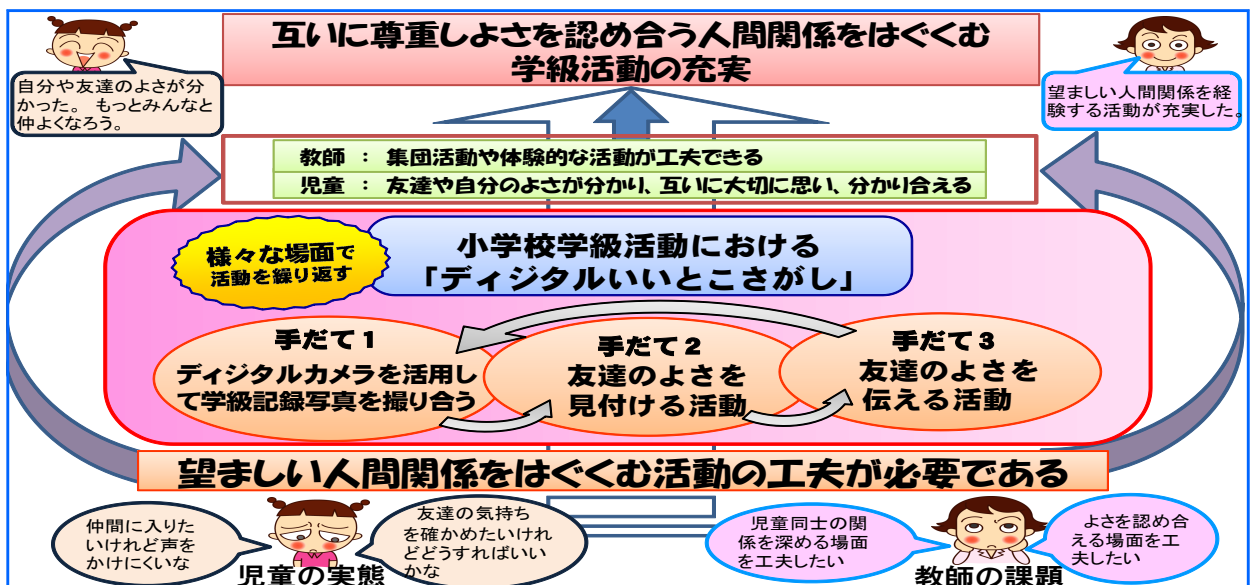


図1 研究構想図

(2) デジタルカメラを活用した活動について

本研究では、デジタルカメラの様々な機能や特性の教育的効果に着目した。児童が写真を撮影する過程では、写す側は、相手のよさを意識して見付けるので意図的によさに着目させることができる。相手を思いやって撮影することを考えさせるので、写真の良し悪しの判断もさせる場面もでき、モラルについても考えさせることができる。高速連写を使って動作を連続で撮影させれば、児童が、よい場面を見つけ撮影したときにその場で表情を確認したり、よりよい表情の一枚を選択したりすることができる。写される側もカメラを構えられることによってよさを発揮しようとする意識が働くと考える。また、写真を学級全員で見る場面では、写真を手がかりに写真だけでは分からないよさや写したときの思いや感じたことを発表させることができる。

(3) 「デジタルいいとこさがし」について

本活動は、三つの手だてを中心構成している。手だて1は、デジタルカメラを活用して記録写真を撮り合うという活動により、カメラを構えることによって友達のよさや大切さに気付いたり、学級のよさを感じ取ったりするような友達の姿を写真に撮るきっかけとなる活動にしたいと考える。児童一人一人が必ず自分の役割を受け持つ係活動から始めて、給食や清掃など当番活動において、各自が役割を果たしたことを視覚的に記録して確認し合うことには意義があると考え。手だて2は、友達のよいところを見付け、言葉で伝えるだけでなく、写真で記録して伝えるために意図的にデジタルカメラを使い友達のよさやがんばりを撮影させる。相手のよさを写す時に、誰も気付かないようなよさを写すことやよいと思った動作を再現して写すというように、相手のよさを引き出すような視点をはっきりさせて取り組ませる。手だて3は、写真によって友達のよさやがんばりを伝える活動を行わせる。写真を活用することは、活動の意欲を高めること、よさを広めた時に多様に受け止められたり感じ取られたりすることに有効であると考え。また、よさを伝える活動をするために、デジタルカメラ活用による効果を生かした帰りの会を設定する。大画面に映して写真を共有すると、写真を撮った児童の想いとは別の想いで他の児童が受け止めることも考えられる。写真を撮ってもらった児童も自己のよさについて様々な想いをもって受け止めることができ、自他のよさを具体的に捉えることに有効であると考え。様々な場面での活動を意図的、計画的に設定して、期間を決めて繰り返して行う活動を工夫したいと考える。

(4) ワークシートについて

「デジタルいいとこさがし」の活動手順・方法、写真の取り扱い、デジタルカメラの扱い方、ワークシートの記入方法についてのワークシートを作成した。

○年○組		
「みんなのいいとこさがしカード」名前()		
番号	名	名前
1	★	さきん
2	□	さん
3	△	さん
4	○	さん
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		
17		
18		
19		
20		

写真を使った伝え方の工夫

注意する点

- ・ 写真をとるとき、「見る人に何か伝えたい」と思って、シャッターを押します。
- ・ 写真をとるときや見せるときのちょっとした工夫で、伝えたいことが、大きくちがってしまいます。

伝えたいポイントが大きくはっきり表すようにします。

大事なこと(もの)を大きく、はっきりとるようにします。

写真は、写真のとおり方によって、見たときの感じが変わります。

伝えたい内容に合わせて、うつすもの大きさや角度などを工夫し、「見え方」を意識してとることが大切です。


しょうぞうけん
肖像権

肖像権というものがあります。人を勝手に写すのはいけません。

人の写真を撮るときは、ひとを写すかきかからしようにね。

1. デジタルカメラを置く場所をしっかりと

カメラを置く場所
写真が撮れる場所をしっかりと見つけよう。




教師の指導・支援事項

- カメラを置く場所を示し、子どもみよりの場所を指定させて使う。
- デジタルカメラの取り扱いは教本をよむ。
- 使う児童は、できるだけ簡単に写すよう促して児童のよさを引き出す。
- 様子を見て、写す場所を指定する。

2. 写真を撮影し合う

自分の係のいいところを見つけてあげる

自分の係で仲よく、協力させる。



教師の指導・支援事項

- 3日間の期間の中で、順番を決めるなどして行わせる。
- 体育係などは、授業中でも担任の許可を得て行わせる。
- 同じ係の中で、交換で撮らせる。
- 係の仕事で工夫していることやがんばっていることなどよいところを撮らせる。
(写真を撮るときは留意事項または留意点 1)

学級全員のよさを見付け、記入させるワークシート

写真を撮るときに注意点について、児童が分かるようにポイントをまとめたワークシート

「デジタルいいとこさがし」の手順や指導上の注意点を示した教師用資料

図2 ワークシート例

V 研究の計画と方法

1 実践の概要

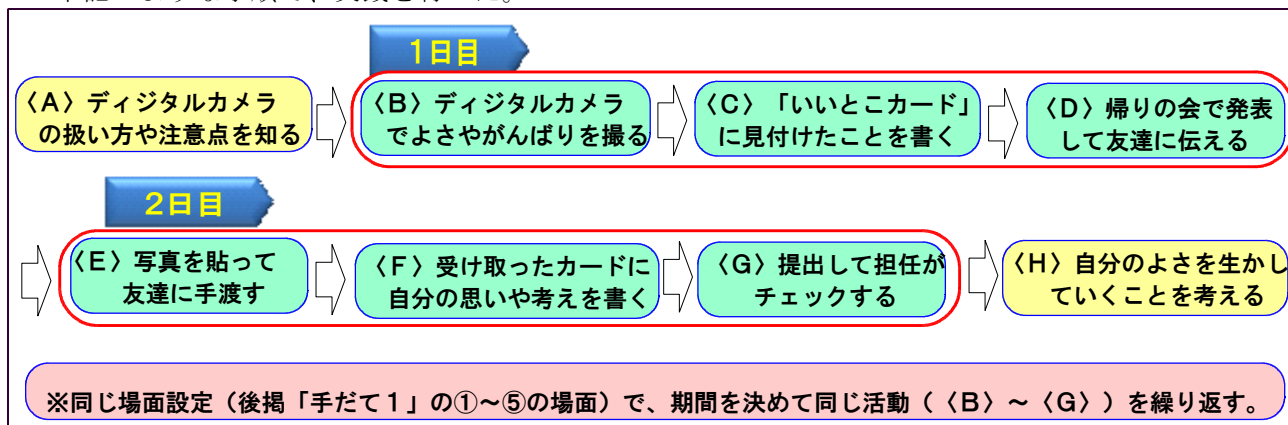
対 象	協力校 小学校第4学年 3クラス		
題 材	学級活動 「キラッと輝くあなたを発見」		
実践時期	平成24年10月	授業者	長期研修員 石森孝子
目 標	児童が自他のよさを認め合える活動「デジタルいいとこさがし」を通して、望ましい集団活動を経験し、共感的な姿勢や態度を養うことにより、互いを尊重しよさを認め合える人間関係をはぐくむことができる。		
実 践	内 容		活動の場
第1時 (授業)	「学級みんなのいいとこ発見しよう」 ・学級の友達のがんばりやいいところを見付けることを考える。 ・「デジタルいいとこさがし」の手順やデジタルカメラの操作や扱いについて知る。		学級活動 (1時間)
3日間 (活動)	◎「デジタルいいとこさがし」チャレンジ1 ・自分の係の友達のよさやがんばりを互いに見付け合い、デジタルカメラで写真を撮り合う。		朝 休み時間等 係活動時
	・デジタルカメラの写真をテレビ等に写しながら、友達のがんばりやよさを発表する。		帰りの会
5日間 (活動)	◎「デジタルいいとこさがし」チャレンジ2 ・違う係のがんばりやよさを見付けて学級全員のがんばりやよさを見付けられるようにする。自分の係でグループとなってグループ活動を行い、互いに写真を撮り合う。 ・多くの友達のよさを見付けた児童を表彰する。		朝 休み時間等 係活動時
	・友達のがんばりやよさを発表する。		帰りの会
5日間 (活動)	◎「デジタルいいとこさがし」チャレンジ3 ・掃除や給食など当番活動、休み時間のがんばりやよさを見付け合う。 ・掃除グループや生活班などで活動させることによって、これまでの活動と違う友達とかかわって、活動できるようにする。		休み時間 昼休み 当番活動時等
	・友達のがんばりやよさを発表する。		帰りの会
第2時 (授業)	「学級みんなのいいとこ発見」 ・「デジタルいいとこさがし」の活動を振り返り、自分の学級のいいところやがんばりを見付けることができたことから、これから学級をもっとよくするために、一人一人が自分のよさを生かしてできることを考える。		学級活動 (1時間)

2 検証計画

検証の観点	検証の方法
デジタルカメラを活用して児童同士で学級記録を写真に撮ることは、友達や学級の雰囲気について知るきっかけになったか。	・活動の様子 ・ワークシートの分析 ・担任教師からの聞き取り
友達のよさを見付ける活動を行うことは、友達のよさや大切さに気づき、共感的な姿勢をもてる学級活動になったか。	・活動の様子 ・ワークシートの分析 ・アンケート結果
友達のよさを伝え合う活動を工夫することは、自他のよさや可能性に気づき、互いを理解して、よさを認め合える学級活動になったか。	・活動の様子 ・ワークシートの分析 ・C & S 質問紙の分析

3 実践の内容

下記のような手順で、実践を行った。



活動の事前学習〈A〉 「学級活動」1時間	
学習活動	指導内容
<p>めあて 友達のがんばりやいいところを見付けることを考えよう</p> <p>○学級のよさを確認し、個人のよさに目を向けることを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> 提示された、写真から学級のよいところを考える。 学級全体としてがんばっていることを考える。 <p>〈児童の考え〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業に集中している。 掃除の約束を守っている。など 	<ul style="list-style-type: none"> 学級全体の写真として雰囲気の良いものを前もって撮っておいた。 これまで過ごしてきた中で感じている学級のよさを考えさせた。 写真を提示して個人のよさを見付けていくことを考えさせた。 <p>個人のよさを示した写真 朝学習に取り組んでいる写真</p>
<p>○今後の活動について理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「デジタルいいとこさがし」の活動について知る。 デジタルカメラの操作を確認する。 友達を写すときの注意点について知る。 <p>〈本時の児童の振り返り〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 学級のよいところは、たくさんあることが分かった。 友達のよさに目を向けて見付けていこうと思った。 ほめてもらった時の気持ちを思い出した。 デジタルカメラの操作が少し分かった。 相手の気持ちを考えて、写真を撮ることを気を付けたいと思った。 	<ul style="list-style-type: none"> 友達のいいところの写真を撮ることに意欲をもたせた。 写真を撮るときには声をかけて相手の了承を得ることや相手を傷つけないように撮ることを理解させた。 <p>写真のとり方を工夫する よい写真って？ 写真のとり方を工夫する</p> <p>写真の撮り方を示した提示資料 写真の扱い方のポイントを示した提示資料</p>

手だて1〈B〉 デジタルカメラを活用した学級記録	
児童の活動	指導のポイント
<p>○①～⑤の場面での活動をデジタルカメラで記録する。</p> <p>①自分の係活動 【3日間】</p> <p>写真を撮るときには、声をかけて、友達のいいところやがんばりを撮る。</p> <p>2～4人のメンバー全員を必ず撮る。</p> <p>②学級の係活動 【5日間】</p>	<p>○できるだけ違うメンバーで活動できるような場面設定を工夫した。</p> <ul style="list-style-type: none"> 2～4名の少人数で、係の仕事のよさやがんばりを互いに写真を撮らせるようにした。 必ず係内全員のよさを見付け写真を撮らせるので、学級全員の写真を撮ることができた。 係の活動時（朝行事前、休み時間、昼休みなど）に写真を撮らせた。 ①の活動は、3日間行った。



③給食時間



④清掃活動



⑤休み時間



③④⑤は、同時進行五日間

自分の係で、グループになって、他の係のよさやがんばりを撮る。

生活班全員のよさやがんばりを撮り合う。

掃除グループの友達のよさやがんばりを交替して撮り合う。

休み時間の友達のよさやがんばりを撮り合う。

- 自分の係の2～4名でグループになって一緒に活動させた。
- 学級内の他の係のよさやがんばりを見つけて、写真を撮らせた。
- 言葉で伝えるカードは、グループで一枚にまとめて書かせた。
- ②の活動は、5日間行った。

- 生活班4名で、互いのよいところを見付け合うようにさせた。
- 給食当番以外でも給食準備中のよいところや片付けるときのよいところを見付けさせるようにした。
- 全員について見付けさせるように期間を5日間設定した。

- 係活動とは違うメンバー同士で、互いのよさやがんばりを見付け合うようにさせた。
- 掃除場所によっては、4名よりも増えたので、男子が女子のよいところを女子が男子のよいところを互いに見付けるようにさせた。
- 5日間の期間で、掃除グループ全員のよさを見付ける活動を行った。

- 休み時間や昼休み中のよさやがんばりを見付け合うようにさせた。
- デジタルカメラをいろいろな場所に持ち出してよいことにしたが、写真の撮り方や友達のよいところを撮ることを指導した。

〈デジタルカメラを活用した学級記録の効果〉

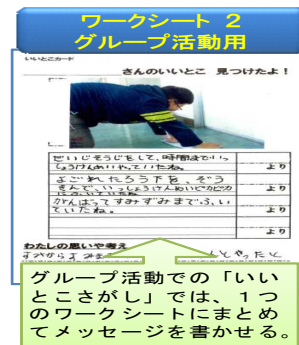
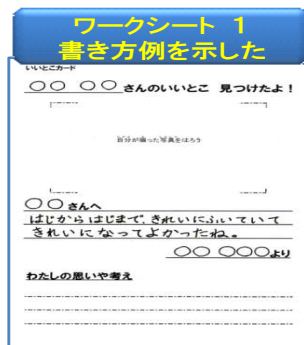
- 学級の生活班での活動によって、毎日隣り合った席に座っていても会話が少なかったが、活動をきっかけに話すことができた。
- 掃除中などは、動きを止めてくれるように声を掛け合いながら活動することができた。
- 写真を撮り合うことによって自分の仕事などの役割を自覚することができた。
- 係活動などの仕事をがんばることのよさを感じることもできた。
- 写真を撮ったことにより、具体的に友達のよいところをメッセージとして書くことができた。

手だて2〈C〉 友達のよさを見付ける活動

児童の活動

指導のポイント

- 写真を撮るときには、様々な場面で友達のよさを見付けて撮る。
- 写真に撮った友達のよさやがんばりを「いいところカード」(ワークシート1、ワークシート2)にメッセージとして書く。
- 児童は、活動していた事実だけではなく、よさやがんばりを具体的に書く。
- グループで活動したときには、ワークシート2に書く。
- 児童は、写真に撮った友達のよさやがんばりを帰りの会で発表できるようにしておく。



- 見つけたよいところをメッセージとして相手に伝えるように、具体的に書かせるように工夫した。



※協力校では、清掃時間に“だいいじそうじ”という約束に取り組んでいる。
だまあって
一生懸命
時間まで
そうじ



カメラを譲り合う、使い方を教え合う、写すときに声をかけるなど、互いにコミュニケーションを取り、相手のことを考えた言動ができた。

・グループ活動のときには、ワークシート2を活用し、児童の負担を少なくするようにした。

活動方法を示したワークシート

「デジタルいいじさがし」
チャレンジ

「ちがう係のいいじさがし」
(同じ係の友達と活動する)

活動時間
10月15日(月)から10月19日(金)まで

活動
1 デジタルカメラで、自分のいいじさがしを撮っている友達がいっぱいいるところへ、いいじさを伝えて、相手のいいじさを撮ろう。
2 撮り終わって、発表しよう。

活動の手順
1 係の人数分の写真を撮る。
例えば、下の図のように…

体育係がこうたいで写真を撮る。 → 配り係が仕事をしている。

全員が写真を撮ったことを確認するシート

「写真を撮ったことを確認するシート」
※写真を撮ったことを確認し、自分の係に属する人数分の「○」を塗りつぶす。

1	○ ○ ○ ○	21	○ ○ ☆ ☆
2	○ ○ ○ ○	22	○ ○ ○ ○
3	○ ○ ○ ○	23	○ ○ ○ ○
4	○ ○ ○ ○	24	○ ○ ○ ○
5	○ ○ ○ ○	25	○ ○ ○ ○
6	○ ○ ○ ○	26	○ ○ ○ ○
7	○ ○ ○ ○	27	○ ○ ○ ○
8	○ ○ ○ ○	28	○ ○ ○ ○
9	○ ○ ○ ○	29	○ ○ ○ ○
10	○ ○ ○ ○	30	○ ○ ○ ○
11	○ ○ ○ ○	31	○ ○ ○ ○
12	○ ○ ○ ○	32	○ ○ ○ ○
13	○ ○ ○ ○	33	○ ○ ○ ○
14	○ ○ ○ ○	34	○ ○ ○ ○
15	○ ○ ○ ○	35	○ ○ ○ ○
16	○ ○ ○ ○	36	○ ○ ○ ○
17	○ ○ ○ ○	37	○ ○ ○ ○
18	○ ○ ○ ○	38	○ ○ ○ ○
19	○ ○ ○ ○	39	○ ○ ○ ○
20	○ ○ ○ ○	40	○ ○ ○ ○

・活動方法を図式化するなどして分かりやすく示した。
・学級全員の写真が撮れたことをチェックできるシートで担任が分かるように工夫した。

〈友達のよさを見付ける活動の効果〉

- ・メッセージに書いて伝え合ったことにより、自分のよさやがんばりを知ることができた。
- ・友達のよさやがんばりをメッセージとして書いたことで、友達の事が印象に残ってよく分かった。
- ・メッセージを受け取ったことにより、みんなのためにがんばるなど自分の役割への意欲をもつことができた。
- ・協力校では、清掃時間に全校で“だいいじそうじ”という約束を守ることに取り組んでいるので、約束をきちんと守ろうという意識が高まった。

手だて3〈D〉 友達のよさを伝える活動

児童の活動

- ・写真を撮った日の帰りの会で、友達のよさやがんばりを発表する。
- ・帰りの会までの児童の活動の流れ

1 友達のよさやがんばりの写真を撮る



2 いいとこカードにメッセージを書く



3 テレビ画面の写真を見たり、メッセージを基にしたりして、具体的によさやがんばりを伝えるように一人10秒くらいで発表する。



テレビ画面に写真を提示して発表した。



いいとこカードを基に、発表した。

指導のポイント

- ・デジタルカメラをテレビにつなぎ、写真をテレビ画面に映せるように準備しておいた。

帰りの会の時
発表の仕方

さんは、

みんなの様子をよく見て、大きな声で写真をかけることを

がんばっていました。

よかったです。

短時間で発表できるように、例示しておいた。

一人10秒くらいで、1日に8人～15人くらい発表をした。

- ・児童一人につき、10秒くらいで発表できるように考えさせた。



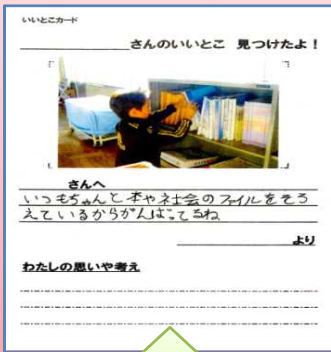
コンタクトシートの写真の順に並んで発表させるようにした。

- ・写真を撮った日のコンタクトシートを印刷しておき、コンタクトシートの順番に並べて待機させた。
- ・コンタクトシートには、発表する写真に丸を付けて写真の下に名前を書かせておいた。

〈友達のよさを伝える活動の効果〉

- ・児童が撮った写真をテレビ画面に映したことにより、児童のよさやがんばりが学級全体に広まった。
- ・児童のよさやがんばりを学級全員で共有できた。
- ・自分が撮った写真がテレビ画面に映ることにより、積極的に発表することができた。
- ・これまで知らなかった友達のよさやがんばりを知ることができた。
- ・友達のよさやがんばりを具体的に発表させることにより、友達が発表した内容と異なるように考えて、多様な言い方でよさやがんばりを発表できるようになった。

〈E〉 友達の写真を貼る

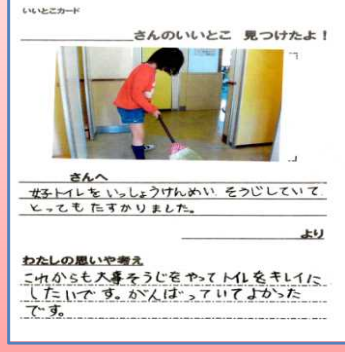


写真を貼って、友達に渡します。

友達のいいところをできるだけ詳しく書いた。



〈F〉 自分の思いを書く



自分のいいところが分かってうれしいな。またがんばろう！

見付けてくれて、ありがとう。



〈G〉 提出する



生活班ごとに提出できるようにファイルを用意した。



コンタクトシートやチェックシートを置き、活動できるようにした。

活動の事後学習 〈H〉 「学級活動」 1 時間

学習活動

指導内容

- 「デジタルいいとこさがし」の活動を振り返る。
- 友達からもらった「いいとこカード」を見直し、うれしかった言葉を見つけて、自分よいところを考える。



うれしかった言葉を選ぶ様子

- ・もらったカードからうれしかった言葉を見付けさせた。
- ・全員に自分のよいところを発表させた。

うれしかった言葉・・・ていねいにできたね。
すみずみまできれいにしてたね。
みんなのためにやってたね。

- 友達にどんなことを伝えようとして、デジタルカメラで写真を撮ったのか考える。そのことから、クラスのいいところやがんばっていることを考える。



意見を発表する様子

- ・「デジタルいいとこさがし」の活動を振り返らせて、デジタルカメラを向けた時の自分の思いや考えを思い起こさせた。
- ・写真を撮ったときに印象に残ったことから、クラスのよさやがんばりを考えさせた。

児童の考え・・・しっかり仕事をしている。
だいじそうじをしている。がんばっている。

- もっとよいクラスにするために、自分よさを生かして、これからどうしようか考える。



生活班4人での話合いの様子

- ・ワークシートに書いたことを基に、自分よさを生かして、これからの自分は何ができるかを考えさせた。
- ・クラスをよくするために自分ができることについて、生活班4人で話し合い、発表させた。

児童の考え
これからもみんなの役に立ちたい。
自分もやればできる。

〈本時の児童の振り返り〉

- ・学級みんなのがんばりで、学級がよくなっていることが写真から分かった。
- ・自分ももっとがんばって、自分の仕事をきちんとしようと思った。
- ・仲よく協力してクラスをよくしようと思った。
- ・自分ももっとやればできると自信をもつことができた。

VI 研究の結果と考察

1 デジタルカメラを活用して児童同士で写真に学級記録を撮ることは、友達や学級の雰囲気について知るきっかけになったか。

写真を撮ろうと友達の日常の姿に着目したことにより、今までに気付いていなかった友達のよさやがんばりに気付いたといえる。場面によって違う友達とかかわることができるようにと設定した活動に取り組んだことにより、児童は友達のよいところを見る視点に変化し、よさというとらえ方の意識も変化した。今まで気付いていなかった友達のよい行動も理解して、行動により変化が見られて学級の雰囲気に変化があったと考える。デジタルカメラで友達のよさやがんばりに着目したことや児童が自分で撮影できたという思いをもったことにより、よさが印象深く残るといふ効果もあったと考える。活動後の児童の感想には、これからもいいところを見つけたという積極的な活動への意欲や、たくさんいいところが見つけられた、帰りの会で発表することができたという充実感など活動によってよりよく変容した児童の様子が多くとらえられた(図3)。協力校の教師の聞き取りから、デジタルカメラ活用によって友達や学級の今まで気付かなかったことに関心をもったので、よさを捉える意識に変化があったという感想を得られた(図4)。

- ・デジタルいいとこさがしをやる前よりも、たくさんいいところが見つけられたのでやれてよかったですと思いました。
- ・デジタルいいとこさがしをして、よいクラスになれたと思います。
- ・これからもみんなのいいところを見つけて、このクラスをいいクラスにしたいと思います。
- ・デジタルいいとこさがしをした後でも、帰りの会で友達のいいところをみんなが見つけていると思います。
- ・デジタルいいとこさがしをしてから、一生懸命助け合って活動しているところが増えました。
- ・今度は、写真を撮らないでも自分でちゃんと見つけたと思います。

図3 デジタルカメラを活用後の児童の感想

- ・デジタルカメラで写真を撮る活動を続けたことによって、友達のよさを捉える写真のアングルがよくなった。
- ・いいところを撮ろうという学級の雰囲気がよくなって、友達のいいところを撮ろうという意識に変化が見られた。
- ・活動に慣れてきたら、互いに言い合うのがいいことだと分かってきた。

図4 協力校教師の感想

2 友達のよさを見付ける活動を行うことは、友達のよさや大切さに気づき、共感的な姿勢をもてる学級活動になったか。

互いのよさを見付けるいいとこさがしをデジタルカメラを活用して行った。活動後に質問紙によるアンケートを4件法で行った。「写真を撮るときに友達に声をかけることができましたか」及び「写真を撮るときに友達から声をかけてもらうことができましたか」の質問には、共に「あった」「少しあった」に全員が当てはまり、「なかった」と答える児童はいなかった。全員が声をかけたり、かけられたりしていたといえる。児童は、カメラを譲り合う、デジタルカメラの使い方を教え合う、一緒に写真を撮ろうと声をかける、撮りたいポーズをして欲しいと声をかけるなどの活動をきっかけにコミュニケーションができていたことが活動の様子からも分かった。活動後の児童の感想(図5)からは、デジタルいいとこさがしをきっかけにこれまであまり話したことがない児童と話すことができ、仲よくなって遊ぶようになったり、日常生活の様々な活動で協力できるようになったりする様子が見取れた。今まであまり気にしていなかった身近な友達について、よさやがんばりに気付いた児童も見られた。これらのことから、友達のよさを見付ける様々な活動場面を設定したことにより、児童は活動をきっかけにして活動毎に違う友達と話すことができたり、協力したりすることが増えた。また、身近にいる友達のよさやがんばりを発見して新たな一面を知ることができた。活動によって、コミュニケーションが活発になり、互いの気持ちを考えた行動ができたことから、互いに思いやる共感的な姿勢をもてる学級活動ができたと考える。

- ・写真を撮ったら、よく遊ぶようになりました。
- ・掃除の時間、給食の時間など写真を撮って、あまり話したことがない子ともいろいろ話せてとても楽しかった。
- ・友達と協力したので、これからもこういう活動があったら、友達と協力できると思います。
- ・掃除の時間は、交替で写真を撮りました。
- ・友達となかよくなったと思いました。

図5 「デジタルいいとこさがし」活動後の児童の感想

3 友達のよさを伝え合う活動を工夫することは、自他のよさや可能性に気づき、互いを理解しよさを認め合える学級活動になったか。

児童の感想からは、「友達のことがよく分かった」「帰りの会で写真が映ると自分でもがんばってよかったと思った」「友達のがんばっているところに気が付いた」という感想を得た（図6）。デジタルカメラで撮った写真をテレビに映したことにより、写真を手がかりに、写真だけでは伝わらない気づきなども発表して言葉で伝えた。それにより、相手によさが伝わり、伝えられた児童自身が自分のよさやがんばりに気付くこともできたと考える。このことから、今まで気付いていなかった自他のよさやがんばりを知ることができて、互いに分かり合えるよりよい人間関係づくりができたと考える。学級全体に一人一人の児童のよさやがんばりを広める活動により、よさを全員で共有し、互いのよさを認め合うことができたと考える。

- ・デジタルいいとこさがしをしてから、帰りの会でいっぱいいいところが出るようになりました。
- ・帰りの会で自分の写真が映ると自分でもがんばってよかったなあと思いました。
- ・これからもいろいろな友達のいいところを見つけて発表したいです。
- ・デジタルいいとこさがしをしてから友達が一生懸命がんばっていたんだなあと気付くようになりました。

図6 よさを伝え合う活動に関する児童の感想

図7のC&S質問紙の事前と事後を比較してみると、学級の雰囲気（横軸）の得点が上がリ、よくなったことが分かった。自己肯定感（縦軸）についても、40より低かった児童のうち3名は下がったが、それ以外は自己肯定感も上がった。これは、活動を行ったことにより、学級の多くの友達とよさやがんばりを認め合えて気持ちが通じたと感じ、互いに尊重し共感的な雰囲気ができて、安心感や存在感が高まったと考える。これらのことから友達や自分のよさやがんばりを見付ける視点を養ったり、コミュニケーションや共感的な関係ができたりという効果があったことにより、よさを認め合う人間関係ができる学級活動の工夫ができたと考える。

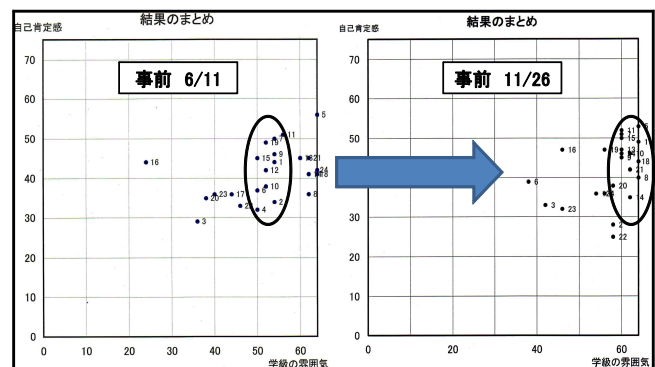


図7 C&S質問紙による分布図の比較

Ⅶ 研究のまとめ

1 成果

- デジタルいいとこさがし活動によって、様々な場面で友達とかかわる活動を意図的に設定したことにより、児童は多くの友達とかかわる時間が増えて互いに尊重し、共感的な姿勢をもつことができた。
- 児童が互いによさを伝え合う活動をすることによって、自他のよさや可能性に気づき、互いによさを認め合うことができた。
- 学級全体で写真を共有しながら、友達のよさやがんばりの発表を視聴することにより、児童のよさが学級に広まり、互いによさを認め合うことができた。

2 課題

- 児童の活動の定着や学級全体に目を向けさせるために、活動方法や活動時期・期間を工夫して実践することで、児童の意欲の高まりや持続を考慮した「デジタルいいとこさがし」を改善していきたい。

<参考文献>

- ・堀田 龍也 編著 『わたしたちとじょうほう 3年4年』 学研 (2011)